

トビウオ通信 (10月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 17 年度下半期浮魚漁況予報》

10月25,26日に、東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類(マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ)の長期漁況予報会議が開催されました。今月は会議内容をもとに、平成17年度後期(H17年11月～H18年3月)の中・長期的な漁模様の予測をします。

漁況(東シナ海～日本海西南海域)予報(H17年11月～H18年3月)

マアジ：前年を下回る

ウルメイワシ：前年・平年を下回る

マサバ：前年並み

マイワシ：極めて少ない

カタクチイワシ：前年・平年並み

マアジは前年を下回る？

平成17年1～9月までの東シナ海における大中まき網漁業でのマアジの漁獲量は3万9千トンで平年同時期(過去5カ年平均)の128%、前年同時期の124%と比較的好調に推移しました(図1)。しかし、沿岸域における当歳魚(2005年級群)の漁況が低調であることから、今後(11月～翌3月)の来遊量は前年を下回ると予測されています。

島根県においては、春季には1歳魚を主体に平年を上回る漁獲がありましたが、7月以降は低調となり、9月までの漁獲量は約2万トンと平年同時期の96%、前年同期の70%にとどまりました。

今後の島根県沖におけるマアジの見通しですが、夏季に水産試験場が島根沖で実施した中層トロール網による加入量調査結果から当歳魚の資源水準は昨年よりは高いと推定されたものの、現在(9月)までの当歳魚の漁獲量は前述の東シナ海の結果と同様に前年をやや下回っています。11月以降漁況が好転する可能性もありますが、このまま当歳魚の漁獲量が低調に推移した場合、来春の漁況も含めて前年を大きく下回る恐れもあります。

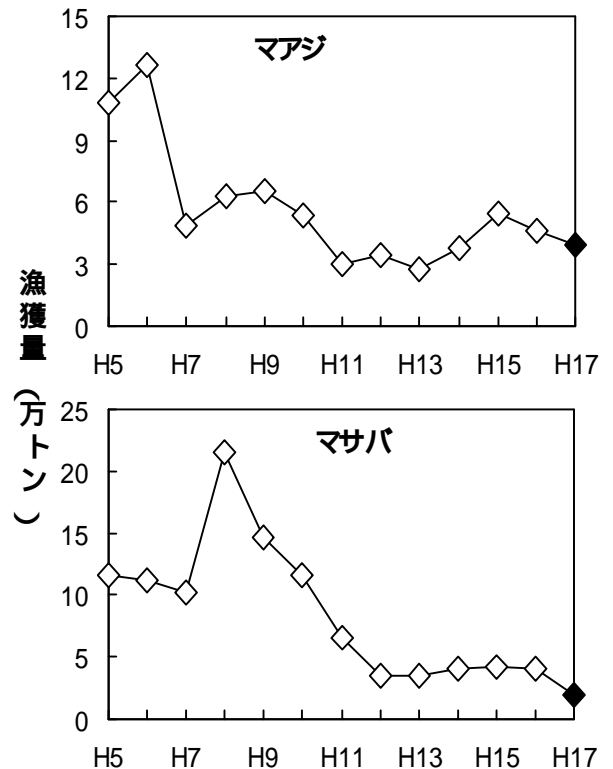


図1 東シナ海における大中まき網によるマアジ、マサバ漁獲量の推移 (H17年は9月までの集計)

マサバは前年並み！

平成 17 年 1~9 月までの東シナ海における大中まき網漁業でのマサバの漁獲量は 1 万 9 千トンで平年同時期の 101%、前年同時期の 157%と推移しました（図 1）。島根県においては、9 月までの漁獲量は約 4 千トンで平年同時期（過去 5 カ年平均）の 111%、前年同時期の 159%と比較的好調に推移しました。

今後の島根県沖におけるマサバの見通しですが、秋以降漁獲に加わる 0 歳魚（平成 17 年生まれ）の資源水準は、東シナ海～日本海西南海域においては、昨年よりはやや低いと推定されているものの、1 歳魚の資源水準は前年をやや上回ると推定されていることから、全体としては前年並みの漁模様になると推測されます。

カタクチイワシは前年・平年並み

島根県においては、平成 13 年に漁獲が落ち込んで以降一旦増加傾向に転じたものの、昨年、本年ともに漁況は低調に推移しています（図 2）。平成 17 年 1~9 月までの島根県における中型まき網漁業での漁獲量は約 6 千トンで平年同時期の 54%、前年同時期の 127%となりました。

今後の島根県沖におけるカタクチイワシの見通しですが、九州沿岸から日本海にかけて 2005 年春季発生群の加入は良かったものの、秋季発生群の発生量は昨年より少ないと推定されていることから、今後は前年・平年並みに推移すると考えられます。

ウルメイワシは前年・平年を下回る

平成 17 年 1~9 月までの島根県における中型まき網漁業でのウルメイワシの漁獲量は約 4 千トンで平年同時期の 172%、前年同時期の 75%と近年では好調に推移したものの、長期的には依然として低位に有るようです（図 2）。漁獲の大半は春季に隠岐周辺海域で獲られたものでした。

今後の島根県沖におけるウルメイワシの見通しですが、九州沿岸から日本海にかけて漁獲が前年を下回っており、当歳魚（2005 年級）の発生量も少ないと推定されていることから、前年・平年を下回る可能性が高いと考えられます。

マイワシは極めて少ない

平成 17 年 1~9 月までの島根県における中型まき網漁業でのマイワシの漁獲量は約 5 百トンで平年同時期の 112%、前年同時期の 93%と推移しましたが（図 2）、依然として極めて低い資源状態にあります。今後もまともな漁場形成は見られず、散発的に沿岸域で漁獲される程度と考えられます。

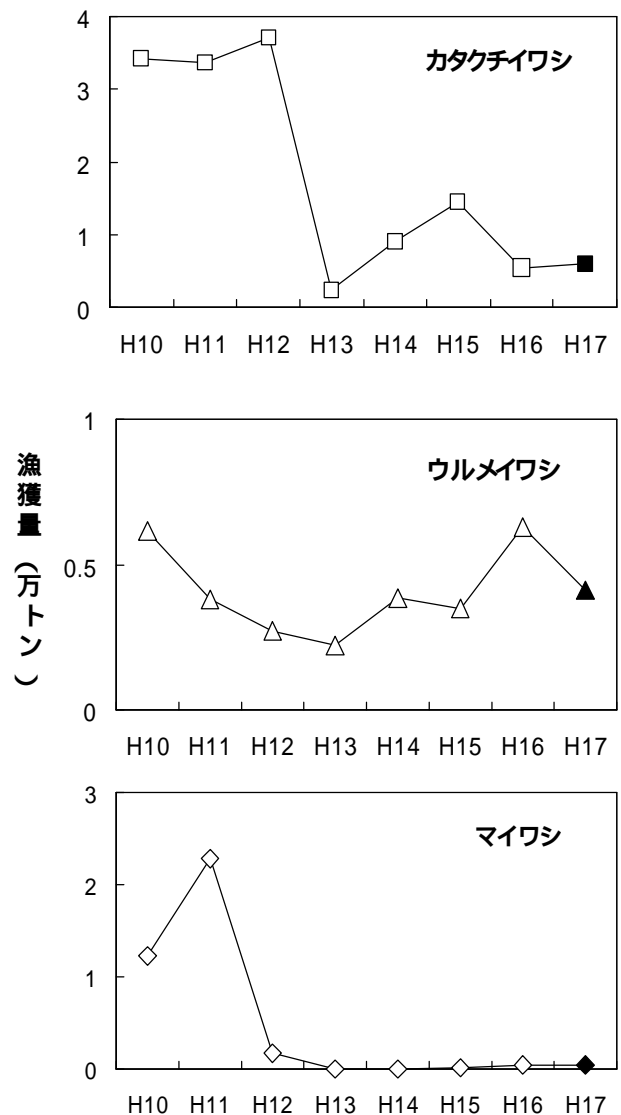
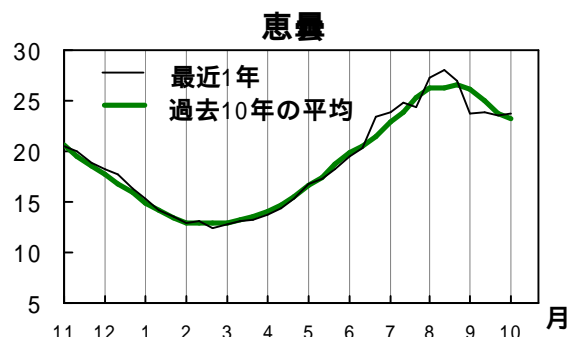
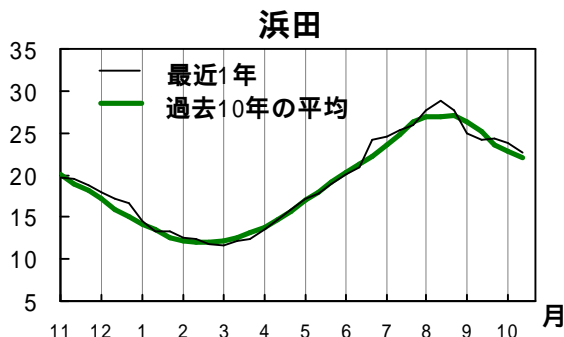


図2 島根県の中型まき網におけるカタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシ漁獲量の推移 (H17年は9月までの集計 属人)

《 9～10月の海況 》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	24.5	-0.6	平年並み
恵曇	23.7	-1.2	やや低め

9月の平均水温は浜田で24.5、恵曇で23.7となりました。前月より浜田、恵曇ともに約3.5 降温し、浜田では「平年並み」、恵曇では「やや低め」の水温となりました。



<エチゼンクラゲ情報>

速報

- 10/27 出雲市塩津定置 クラゲが再び増えてきたため操業停止
- 10/27 水産試験場島根丸 浜田沖で海洋観測中に多数のクラゲ目撃 (沿岸近くでは少ない)
- 10/27 水産試験場明風 江津沖で多数のクラゲ目撃
- 10/中旬 定置(隠岐の島町五箇):数千個入網。定置(隠岐の島町岬町):大小 500～600 個入網
- 10/中旬 石見部、定置では全体的に入網が減っている。小底、沖底では依然入網あり
- 10/中旬 出雲部小底 種・2種 依然大量入網あり
- 10/20 定置網(御津漁協)大量入網(ダンブルー杯)

10月の概況

- ・上旬：出雲部や隠岐の定置網では数千個単位の大量入網がありました。小底 沖底 まき網でも相変わらず入網が続いていますが、入網がやや減ったとの情報もあります。
- ・中旬：定置では場所により数百～千以上の入網がありますが、一部地域の沿岸ではクラゲの数がやや減ってきたようです。沖底 小底では依然大量入網があります。

インターネットで上記のようなクラゲ情報の提供を随時行っています。携帯・パソコンで下記をご覧ください。
<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ik/>



《 9月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に267トン、総水揚金額は4,363万円でした。1統当りの漁獲量は89トンで、平年(過去5ヵ年平均)の72%、前年の54%、同水揚金額は1,454万円、平年の66%、前年の43%と前月と同様に低調に推移しました。これは出漁日数が少なかったことや、漁獲の主体であるマアジの漁獲が低調だったためです。西郷では、マアジ、サバ類およびブリ主体に総漁獲量2,014トン、総水揚金額は2億1,526万円でした。1統当りの漁獲量は336トン(平年の55%、前年の63%)、水揚金額は3,588万円(平年の82%、前年の62%)と前月と同様に低調に推移しました。これは前月と同様にサバ類が比較的好調であったものの、ブリが不調であったためです。浦郷ではサバ、マアジ主体に総漁獲量1,028トン、総水揚金額は5,624万円でした。1統当りの漁獲量は257トン(平年の57%、前年の111%)、水揚金額は1,406万円(平年の54%、前年の61%)と前月と同様に低調に推移しました。これは西郷と同様にサバ類が比較的好調であったものの、マアジの漁獲が低調であったためです。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に61トンで平年(過去5ヵ年平均)の111%、前年の116%、水揚金額は2,283万円、平年の114%、前年の102%とほぼ平年並みに推移しました。

た。西郷のイカ釣船（5トン以上）の漁獲量はスルメイカ主体の44トンで、平年の92%、前年の97%、水揚金額は1,594万円で平年の132%、前年の99%となりました。

【沖合底びき網漁業】

エチゼンクラゲ大量来遊の影響を受け、漁場、魚種が制限されるなどの影響を受けました。このため漁獲量では大きな変化はありませんでしたが水揚金額が前年に比べ減少しました。

浜田港ではムシガレイ、ニギス、スルメイカが漁獲の中心でした。1統当り総漁獲量では前年同月を5%上回りましたが、水揚金額では19%下回りました。キダイ、ケンサキイカ、アカムツの漁獲量が減少（それぞれ前年の21%、45%、13%の漁獲）した分をニギス、スルメイカ（それぞれ前年の3.5倍、4.6倍の漁獲）で補った格好になりました。恵曇港ではムシガレイ、ヤナギムシガレイ、スルメイカが漁獲の中心でした。

【小型底びき網漁業】

エチゼンクラゲ大量来遊の影響を受け、漁獲量、水揚金額とも前年に比べ減少しました。

大田市漁協では、漁獲量で前年を5%、水揚金額で16%下回りました。主な漁獲物はニギス、ケンサキイカ、ムシガレイで、ニギスは前年の2倍の漁獲量がありました。

和江漁協では漁獲量は前年を23%、水揚金額で14%下回りました。ケンサキイカ、キダイ、ムシガレイが主に漁獲されています。特にキダイの漁獲は、好調だった前漁期と比べて36%の漁獲に留まっています。

【定量網漁業】

エチゼンクラゲ入網の影響もあり、県東部では漁獲量で前年比71%、平年比75%、水揚金額で前年比107%、平年比79%と低調で、県西部でも漁獲量で前年比152%、平年比81%、水揚金額で前年比238%、平年比61%と低調でした。隠岐では漁獲量で前年比207%、平年比310%、水揚金額で前年比366%、平年比223%と好調でした。主な漁獲物は県東部ではサワラ、マアジ、ケンサキイカ、ブリ、県西部ではマアジ、サバ、カワハギ類、隠岐ではカワハギ類、マアジ、イサキ、カンパチ等でした。

【釣・縄】

県東部では漁獲量で前年比122%、平年比90%、水揚金額で前年比116%、平年比87%とやや低調でした。県西部では漁獲量で前年比88%、平年比64%、水揚金額で前年比76%、平年比50%と低調でした。隠岐では漁獲量では前年比125%、平年比63%でしたが、金額では単価の高いヨコワ（畜養用活魚）が多かったため前年比207%、平年比129%と好調でした。主な漁獲物は県東部ではケンサキイカ・アマダイ・サワラ、県西部ではケンサキイカ・メダイ・アマダイ、隠岐ではクロマグロ（ヨコワ）・ケンサキイカ等でした。

漁獲統計

平成17年9月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	40	マアジ	6.7トン	267トン
	西郷	97	マアジ・サバ類・ブリ	20.8トン	2,014トン
	浦郷	49	サバ類・マアジ	21.0トン	1,028トン
イカ釣り (5トン以上)	浜田	223	ケンサキイカ	273kg	61トン
	西郷	305	ケンサキイカ・スルメイカ	145kg	44トン
沖合底びき網	浜田	31	ムシガレイ、ニギス、スルメイカ	11.0トン	342トン
	恵曇	19	ムシガレイ、ヤナギムシガレイ、スルメイカ	Xトン	Xトン
小型底びき網	大田市	289	ニギス、ケンサキイカ、ムシガレイ	632kg	183トン
	和江	419	ケンサキイカ、キダイ、ムシガレイ	613kg	239トン
定置網	浜田	72	マアジ、サバ類、ブリ	652kg	47.0トン
	美保関	109	マアジ、サワラ、ソウダガツオ	362kg	39.5トン
	浦郷	30	カワハギ類、マアジ、サバ類	329kg	9.9トン
釣・縄	浜田	458	ケンサキイカ、メダイ、ブリ	46kg	41.9トン
	五十猛	123	ケンサキイカ、メダイ、メダイ	67kg	16.4トン

：1隻（統）1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

水産試験場ホームページ（月別漁模様）で上記の漁況の詳細をご覧ください。